◆第2回　発情徴候の観察に努力しましょう(前)

人工授精回数が増えると経費が増えることは前回話しました(８月３週号参照)。ではどうすれば理想的な繁殖成績を得られるかを考えましょう。

皆さんは、飼育している牛の行動を１日に何回、１回にどのくらいの時間観察していますか？

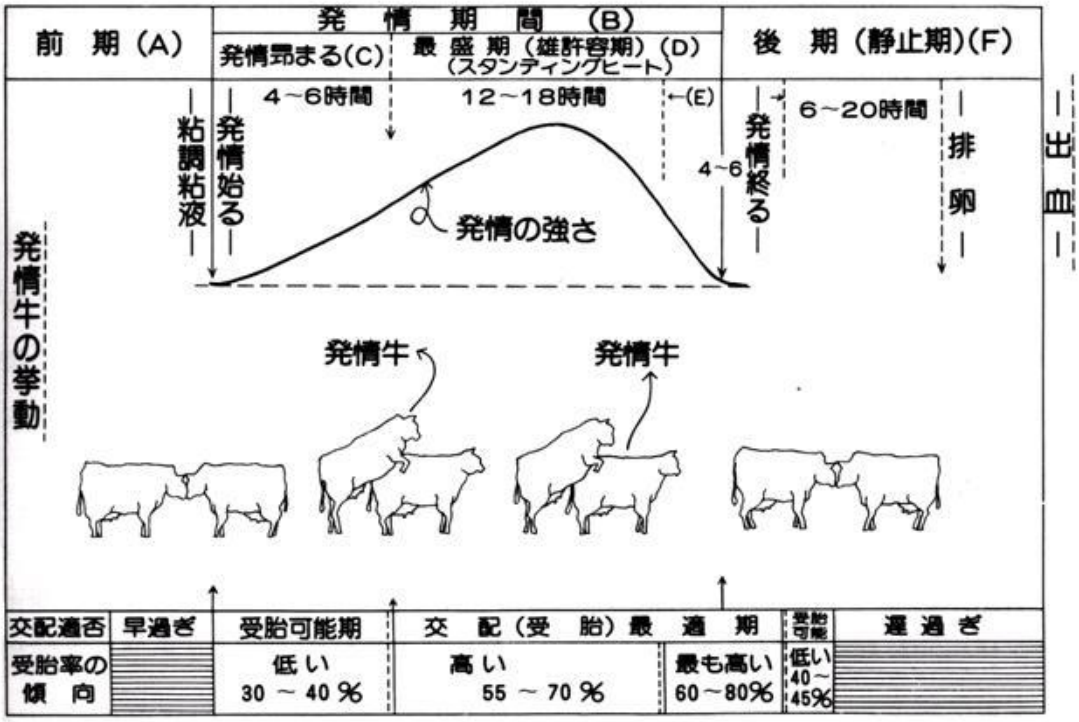
牛の行動観察は、１回に１０～１５分間、朝日の出る前後、夕日が沈む前後およびパドックに出す時と牛舎に入れる時に注意深く行うべきと言われています。

何か他の作業をしながら牛の行動を観察すると、特徴的な動きを見落とし、適切な時期に人工授精が行われないことが多く、繁殖成績が上がらない原因となります。

今回は、適切な時期に授精を行うことの大切さを考えてみましょう。

牛について発情が開始する時(下図の左側)と、発情徴候が消える時(下図の右側)は似た行動を示します。発情徴候の一例としては、運動量が増える、互いに鼻を擦り合わせる、顎(あご)を他の牛の尻に乗せる、他の牛に乗駕(じょうが)を試みるなどの行動を示し、時には外陰部から糸を引く水のような粘液を出します。

発情徴候の変化（枡田：1983）



畜舎内で飼育している場合は、牛の臀部(でんぶ)や尾の裏側、尿溝や床にセロハン紙のように光る粘液が見られるようになります。

もしこの粘液が濁っていたり、黄緑色の時は生殖器の病気が疑われますので獣医師の診療を受けてください。粘液に、血が混じっている時は人工授精師への連絡は行わず、２週間後頃から牛の行動に注意してください(排卵が終わってしまったためです)。

今回の目的は、図の中央やや右寄りの時期をしっかり観察することです。発情徴候は、夜中に開始する例が多く、朝の行動(乗駕行動＝他の牛が乗っても静かに動かない)、このような行動の観察が特に大切であると言われています。(詳しくは次回で)

農業共済新聞　岩手版　2005 年 9 月 1 週号より